
平成28年度 決算説明会資料

平成29年5月9日

日新製鋼株式会社

当社の状況

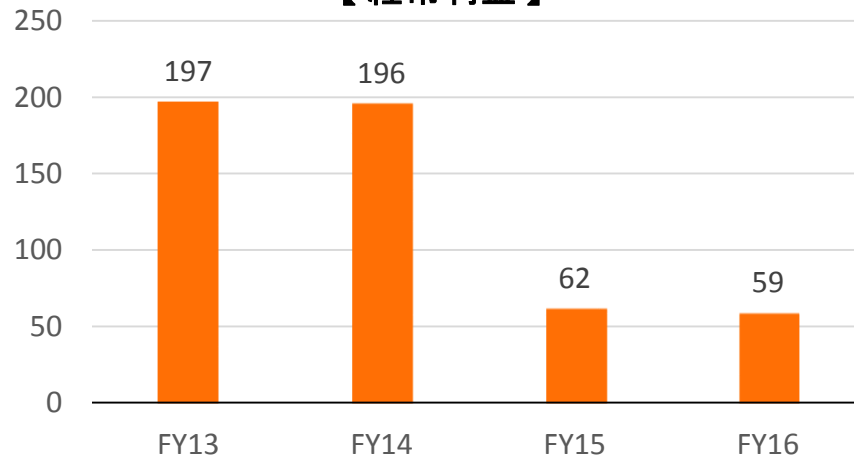


24号中期連結経営計画 総括(1)

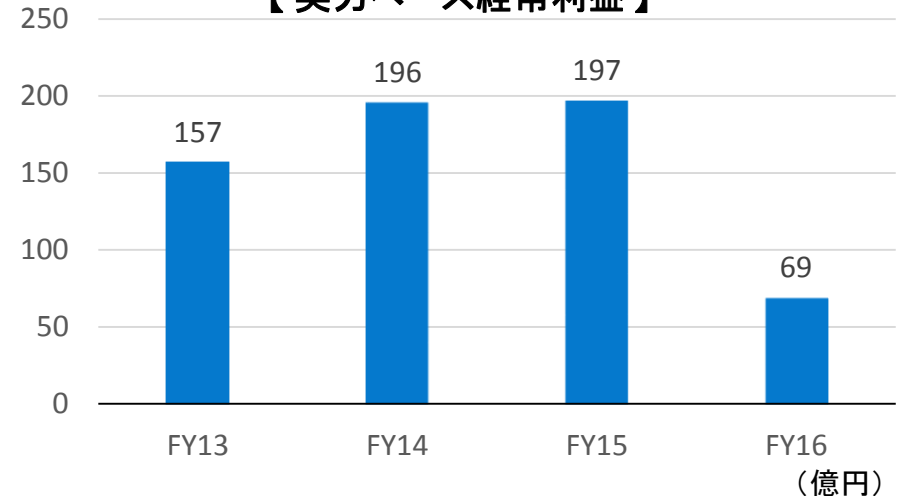
業績推移

- ◇ 在庫評価影響を除いた実力ベースの経常利益は、24号中計の推進により着実に増加
- ◇ ただし、当期については設備トラブルや原材料価格の転嫁遅れ等の一過性要因により、遺憾ながら減益

【経常利益】



【実力ベース経常利益】



	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度		
	下期				上期	下期	計
売上高	2,720	5,764	6,175	5,470	2,517	2,738	5,255
経常利益	▲ 96	197	196	62	10	49	59
うちステンレス	▲ 50	70	35	▲ 110	▲ 35	▲ 10	▲ 45
実力経常利益	▲ 71	157	196	197	70	▲ 1	69
うちステンレス	▲ 45	55	10	▲ 20	0	▲ 10	▲ 10

[参考]中計2016年度	
メイン	リスク
6,350	6,050
380	220
180	110
380	220
180	110

24号中期連結経営計画 総括(2)

統合シナジーと合理化・総コスト削減

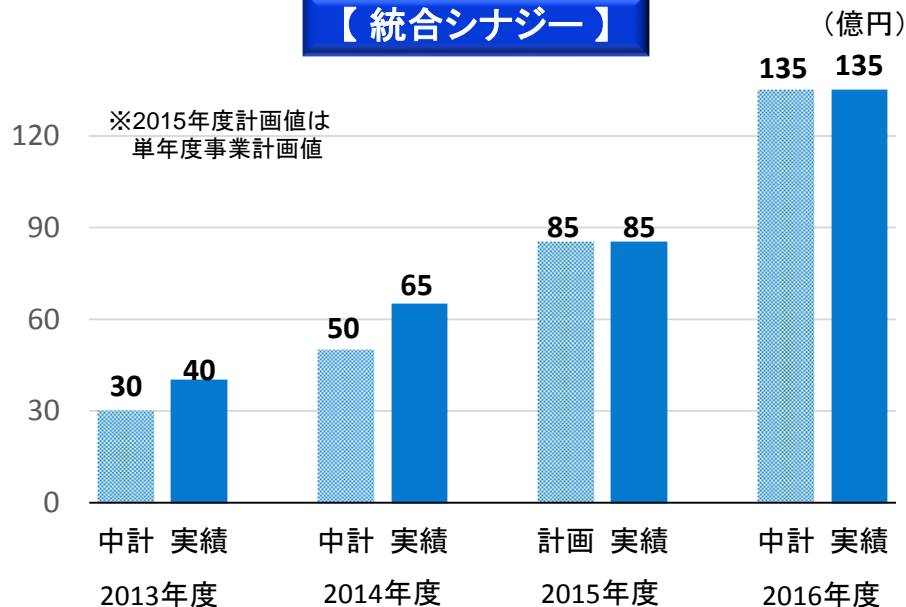
◇ 統合シナジー

統合シナジー最大化に向けた戦略投資や各種施策を推進した結果、中計目標である135億円を達成

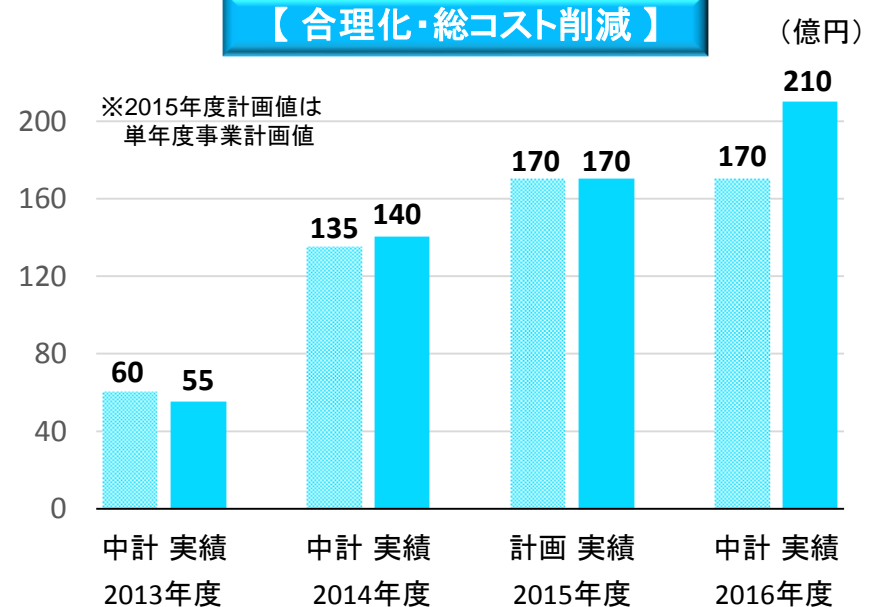
◇ 合理化・総コスト削減プロジェクト

全社一丸となってコスト削減活動を進めた結果、中計目標を大幅に上回る210億円の合理化を達成

【 統合シナジー 】



【 合理化・総コスト削減 】

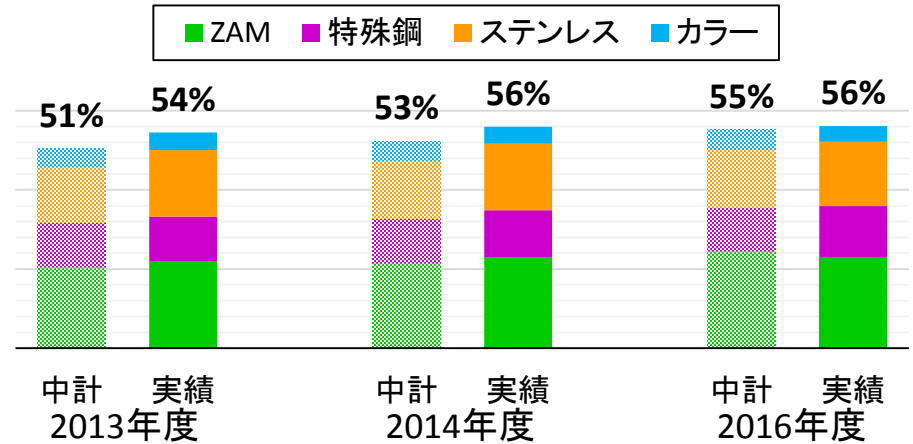


24号中期連結経営計画 総括(3)

コア製品戦略 : コア製品比率の推移と新商品開発

◇ コア製品比率の推移

- ・ 中計目標値である「コア製品比率55%」を早期にクリア
- ・ 製品全体の受注量がメインケースを下回る水準で推移する中で、コア製品戦略による構成改善を強力に推進

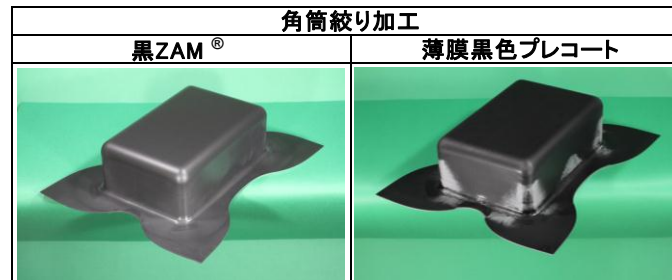


◇ 新商品開発によるコア製品の多層化

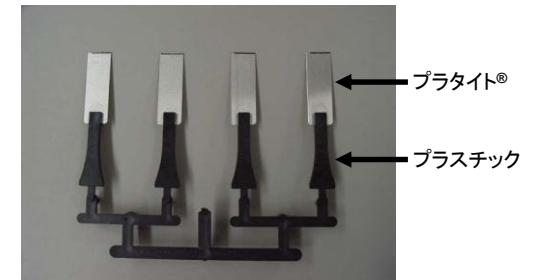
- ・ ZAM®に塗膜密着性や低光沢性を付加した発展型商品『ZAM+® (ザムプラス)』リリース (2014年9月)
- ・ 各種プラスチックとの優れた接合性を有する特殊表面改質鋼板『プラタイト®』リリース (2017年2月)
- ・ ZAM®のめっき層を特殊な改質で黒色化した発展型商品『黒ZAM®』リリース (2017年3月)



[ZAM+® 用途例: 遮音壁]



[黒ZAM®と薄膜黒色プレコートの角筒絞り加工後外観]



[プラタイト®の接合イメージ]

24号中期連結経営計画 総括(4)

コア製品戦略：国内マーケット開発

- ◇ 2015年4月、「グループ商品開発戦略本部」を新設（2016年4月、「グループ開発本部」に改称）
 - ・ 需要家ニーズを踏まえた商品開発案件の探索・収集、市場展開戦略の策定・実行等を強力に推進
 - ・ 同組織を中心に、展示会出展等を積極的に展開
 - ⇒ 本年4月に開催された「高機能金属展(東京ビッグサイト)」に当社新製品「黒ZAM[®]」「プラタイト[®]」等を出展



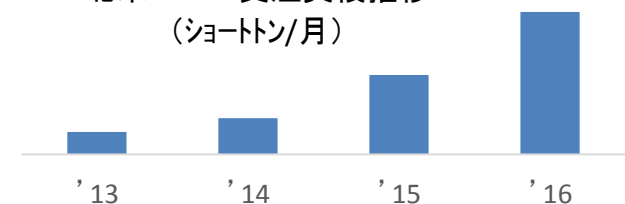
コア製品戦略：海外マーケット開発

- ◇ 中国：特殊鋼事業
 - ・ 浙江日新華新頓精密特殊鋼有限公司
2016年7月 営業生産開始
 - ・ 認定等に時間を要するものの、自動車部品等を中心に受注活動を推進

- ◇ 北米：ZAM[®]の生産・販売
 - ・ 2013年11月、Wheeling NisshinでZAM[®] 営業生産開始
 - ・ 以降、自動車部品を中心に、建材、農業用資材等で着実に受注増



北米ZAM[®]受注実績推移
(ショートトン/月)



24号中期連結経営計画 総括(5)

コア製品戦略：グループ事業戦略

◇ グループ事業戦略の基本的な考え方

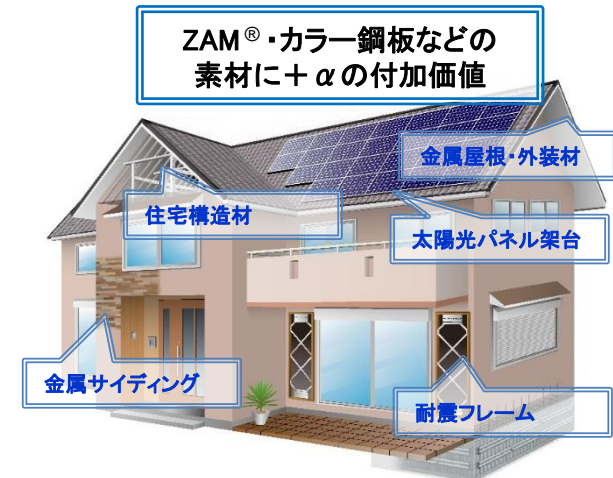
素材販売にとどまらず、技術(加工・溶接等)、サービス等で「素材+α」の付加価値を創出

◇ 中核事業の分社化戦略

- ◎ 塗装・建材事業：2016年4月、日新製鋼建材株式会社を新発足
【分社化・新発足の意義】

今後の塗装・建材事業の成長戦略ターゲットを
金属材料への切り替え等が狙える住宅分野に設定

- ・ ターゲットに即した市場密着型の事業体制構築
- ・ 経営資源集中による競争力強化



- ◎ ステンレス鋼管事業：2014年4月、日新製鋼ステンレス鋼管(株)を新発足

市場ニーズの捕捉や意思決定の迅速化を目的に分社化。以降、同社の機能を段階的に強化

- ・ 2015年 4月 当社から同社に販売機能に移管し、製販一体化を実現
- ・ 2016年 7月 生産性向上を目的に、同社衣浦工場を閉鎖。尼崎工場に生産集約
- ・ 2017年 4月 当社から同社に生産設備に移管し、完全独立運営を確立

24号中期連結経営計画 総括(6)

設備投資と投融資

◇ 投資実績

鉄鋼事業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、リスクシナリオに即した投資を推進

	投資実績				
	FY13	FY14	FY15	FY16	計
投資額(※)	271	390	378	314	1,353

(億円)

参考: 中計投資計画(累計)	
メイン	リスク
1,600	1,470

※有形資産・無形資産・投融資の検収合計額

◇ 主要投資案件

- 呉製鉄所 取鍋精錬炉(LF)・スラブグラインダー
- 周南製鋼所 製鋼設備リフレッシュ
- 中国特殊鋼事業(浙江日新華新頓精密特殊鋼)
- W-N 連続溶融めつき設備ZAM®生産対応、等

【周南新CC】



コア製品成長に係る戦略投資は、中計の投資計画に準じ、最優先事項として実施

24号中期連結経営計画 総括(7)

財務体質の改善と連結キャッシュフロー

◇ 財務体質の改善

【中計目標】

リスクシナリオ時においても2016年度末時点における純D/Eレシオ1.0倍以下



在庫圧縮、遊休資産の売却等を推進した結果、有利子負債を対中計(メイン)で350億円圧縮。中計目標の純D/Eレシオは早期に達成

	実績			(億円) (参考) 中計(メイン) FY16末
	FY12末	FY14末	FY16末	
有利子負債	3,335	2,898	2,450	2,800
純資産	1,792	2,719	2,262	2,420
純D/Eレシオ(倍)※	1.35	0.86	0.89	0.9

※ハイブリッド証券/ハイブリッドローンの元本の50%を資本とみなした格付け上の純D/Eレシオ

◇ 連結キャッシュフロー

【中計目標】

リスクシナリオ時においても2013年度以降の連結フリーキャッシュフロー黒字を確保



中計施策による収益改善、在庫圧縮等により、毎期のフリーキャッシュフロー黒字を達成

	連結C/F					(億円)
	FY13	FY14	FY15	FY16	4カ年計	
営業CF	266	393	505	575	1,740	
投資CF	△ 192	△ 293	△ 282	△ 375	△ 1,144	
FCF	74	99	222	200	596	

今後の重要経営課題

対処すべき4つの課題

◇ 事業構造改革の推進と収益基盤の強化

- ◎ 事業構造改革の推進
 - ・呉製鉄所高炉1基化(2019年度)
 - ・コア製品戦略の深化
- ◎ 子会社化にともなう統合シナジーの最大創出



収益基盤の一層の強化

※本年4月、呉製鉄所の事業構造改革に関する企画立案と推進を専門的に行う「呉構造改革推進室」を新設

◇ 開発力・提案力の一層の強化

- ◎ お客様と一体となった開発営業の強化
- ◎ コア製品戦略分野への経営資源集中



**商品開発・用途開発の加速
顧客満足度の向上**

◇ ものづくり基盤の再構築とコスト競争力の強化

- ◎ 高位安定生産と品質向上への取り組み推進
- ◎ 人財育成・技能伝承



コスト競争力・品質優位性の徹底強化

◇ グループ総合力のさらなる発揮

- ◎ 日新製鋼グループ全体での戦略共有・一体運営



グループ収益の最大化

新日鐵住金(株)による当社子会社化について

2017年3月13日 TOBによる子会社化が完了。新日鐵住金グループの一員に

「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」の実現に向けて



新日鐵住金

しんにってつすみきん

世界トップレベルの技術先進力、商品対応力、
鉄源を中心としたコスト競争力とグローバル対応力

融合



日新製鋼

お客様のニーズに即したきめ細かな
開発営業による市場対応力

相乗効果を早期に実現することで、「総合力世界No.1鉄鋼メーカー」の地位を揺るぎないものとし、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指す

平成28年度 決算の概要



平成28年度決算

概況

- ✓ 原料価格の上昇に伴うコストアップ分について、自助努力の範囲を超える分については、お客様のご理解を得ながら販売価格へ反映させる取り組みを推進。しかしながら、足元の原料コスト上昇分の反映が次年度の販売価格にずれ込む影響等もあり、連結売上高は対前年同期▲215億円の5,255億円となった。
- ✓ また、呉製鉄所における定期修繕後の立ち上げ遅れや安定稼動を優先したコストアップ等の影響もあり、連結経常利益は対前年同期▲3億円の59億円、在庫評価除く実力ベースの連結経常利益は同▲128億円の69億円となった。
- ✓ ステンレスは原料価格の上昇や旺盛な需要環境を踏まえ、夏以降段階的に販売価格の引き上げを実施。しかしながら、製鋼での初期トラブル等もあり、連結経常利益は▲45億円(対前年同期+65億円)、在庫評価除く実力ベースの連結経常利益は▲10億円(同+10億円)となった。

平成28年度決算

(億円)

	No	H28年度		H27年度	
		(実績) a	(前回予想) b	(実績) c	
売上高	1	5,255	5,120	5,470	
営業利益	2	78	85	100	
経常利益	普通鋼・特殊鋼	3	104	95	172
	ステンレス	4	▲ 45	▲ 40	▲ 110
	計	5	59	55	62
親会社株主に帰属する 当期純利益	6	16	10	▲ 66	

差異	
① a-b	② a-c
135	▲ 215
▲ 7	▲ 22
9	▲ 68
▲ 5	65
4	▲ 3
6	82

在庫評価	普通鋼・特殊鋼	7	25	25	▲ 45
	ステンレス	8	▲ 35	▲ 25	▲ 90
	計	9	▲ 10	0	▲ 135

0	70
▲ 10	55
▲ 10	125

<実力ベース>

経常利益	普通鋼・特殊鋼	10	79	70	217
	ステンレス	11	▲ 10	▲ 15	▲ 20
	計	12	69	55	197

9	▲ 138
5	10
14	▲ 128

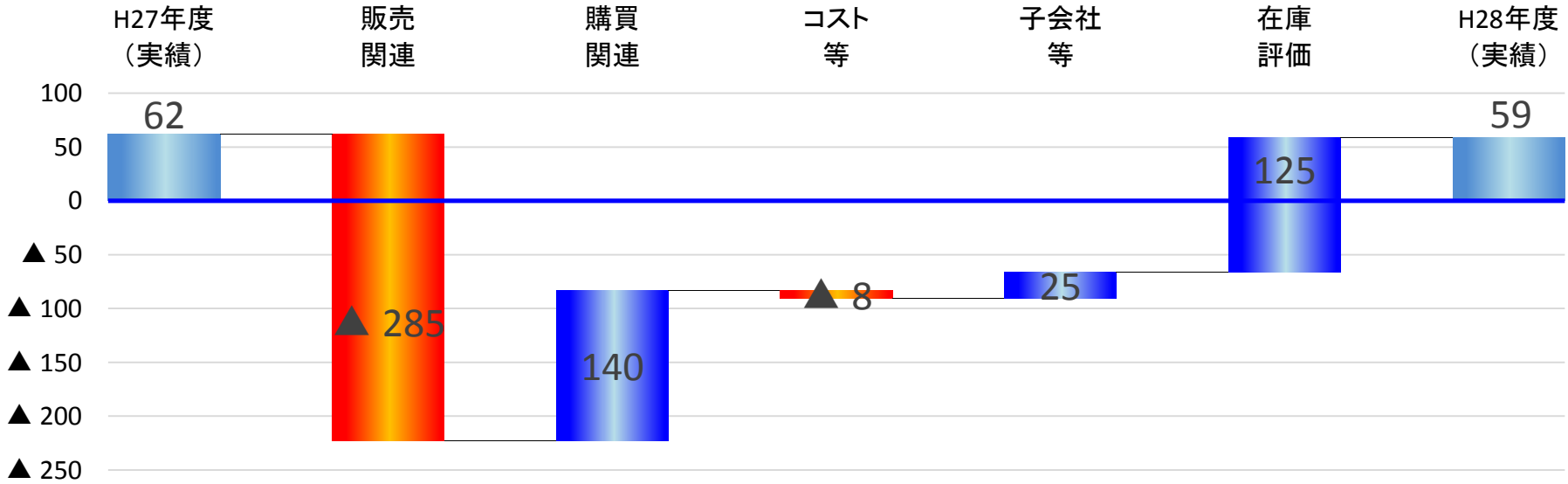
平成28年度諸元

		No	H28年度		H27年度
			(実績) a	(前回予想) b	(実績) c
粗鋼生産量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	1	294	294	314
	ステンレス	2	66	66	65
	計	3	360	360	379
販売数量 (万トン)	普通鋼・特殊鋼	4	308	304	306
	ステンレス	5	53	53	52
	計	6	361	357	358
鋼材平均単価 (千円/トン)		7	109	109	117
輸出比率 (金額ベース, %)		8	15	15	15
輸出為替レート (円/ドル)		9	108	107	120

差異	
① a-b	② a-c
0	▲ 20
0	1
0	▲ 19
4	2
0	1
4	3
0	▲ 8
0	0
1	▲ 12

経常利益差異内訳

H27年度通期(実績):H28年度通期(実績)

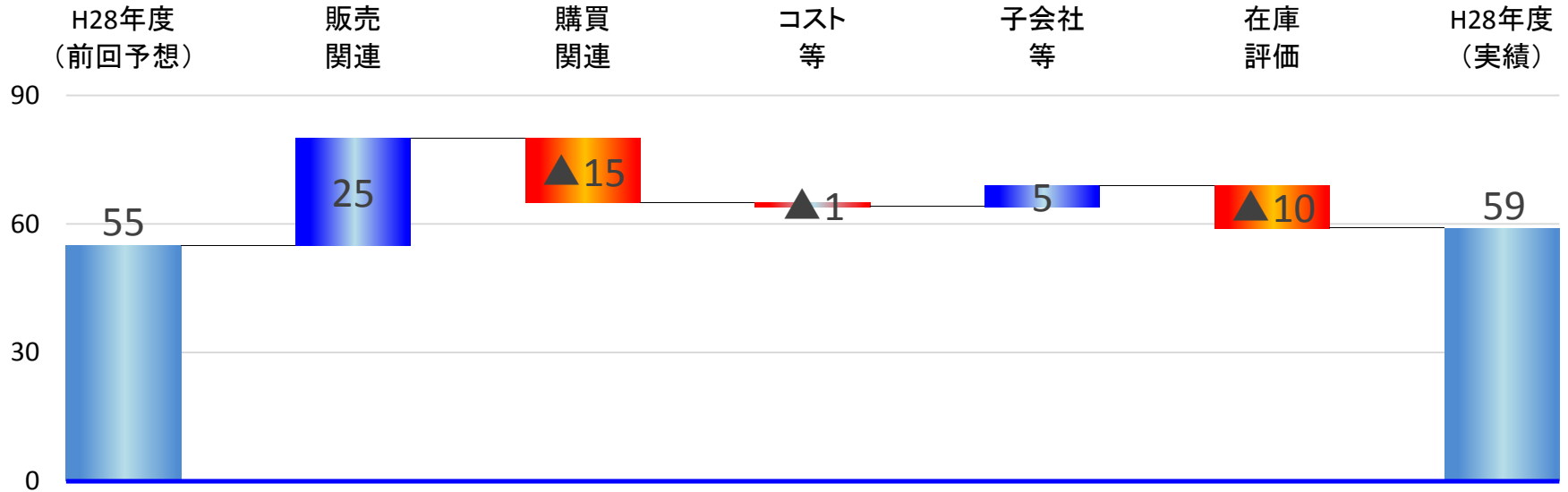


(億円) (内ステンレス)

H27年度通期 (実績)		62	変動要因	▲ 110
変動要因	販売関連	▲ 285	価格差▲235、数量構成差 5、輸出為替差▲55	▲ 145
	購買関連	140	鉄鉱石 25、石炭▲100、油類 15、ニッケル原料 50 輸入為替差 140	135
	コスト改善等	▲ 8	合理化等	5
	子会社等	25	子会社等 25	15
	在庫評価	125	▲135→▲10 (内ステンレス▲90→▲35)	55
	計	▲ 3		65
H28年度通期 (実績)		59		▲ 45

経常利益差異内訳

H28年度通期(前回予想):H28年度通期(実績)



(億円) (内ステンス)

H28年度通期 (前回予想)		55	変動要因	▲ 40
変動要因	販売関連	25	価格差 10、数量構成差 10、輸出為替差 5	0
	購買関連	▲ 15	輸入為替差 ▲10	▲ 5
	コスト改善等	▲ 1	合理化等	5
	子会社等	5	子会社等 5	5
	在庫評価	▲ 10	0→▲10 (内ステンス▲25→▲35)	▲ 10
	計	4		▲ 5
H28年度通期 (実績)		59		▲ 45

貸借対照表 (H29年3月末)

(億円)

		対H28/3末	主な内訳
現預金	167	▲ 147	
売上債権	605	▲ 169	
たな卸資産	1,321	73	
その他流動資産	483	227	
有形・無形固定資産	2,873	85	
投資等	1,612	▲ 87	
資産合計	7,064	▲ 17	

有利子負債	2,450	▲ 344	
その他の負債	2,351	244	
負債合計	4,801	▲ 99	
資本金・資本剰余金	1,063	—	
利益剰余金	771	▲ 11	配当▲27、当期純利益+16
自己株式	▲ 5	▲ 0	
その他の包括利益累計額	303	27	その他有価証券評価差額+59、為替換算調整額▲38
非支配株主持分	129	66	
純資産合計	2,262	82	
負債・純資産合計	7,064	▲ 17	

キャッシュ・フロー

(億円)

	H28年度	主な内容	H27年度						
営業活動による キャッシュ・フロー	575	<table border="0"> <tr> <td>税引前純利益</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>売上債権減少</td> <td>170</td> </tr> </table>	税引前純利益	50	減価償却費	278	売上債権減少	170	505
税引前純利益	50								
減価償却費	278								
売上債権減少	170								
投資活動による キャッシュ・フロー	▲ 375	有形固定資産取得 ▲ 315	▲ 282						
財務活動による キャッシュ・フロー	▲ 361	<table border="0"> <tr> <td>有利子負債減少</td> <td>▲ 344</td> </tr> <tr> <td>配当金支払</td> <td>▲ 27</td> </tr> </table>	有利子負債減少	▲ 344	配当金支払	▲ 27	▲ 165		
有利子負債減少	▲ 344								
配当金支払	▲ 27								
現金及び現金 同等物の期末残高	206		313						

剰余金の配当

◆ 1株当たり5.0円の期末配当を実施

連結業績に応じた適切な配当を念頭に、
足元の業績ならびに先行きの経済情勢と
当社グループの事業展開等を総合的に
勘案した結果、遺憾ながら減配

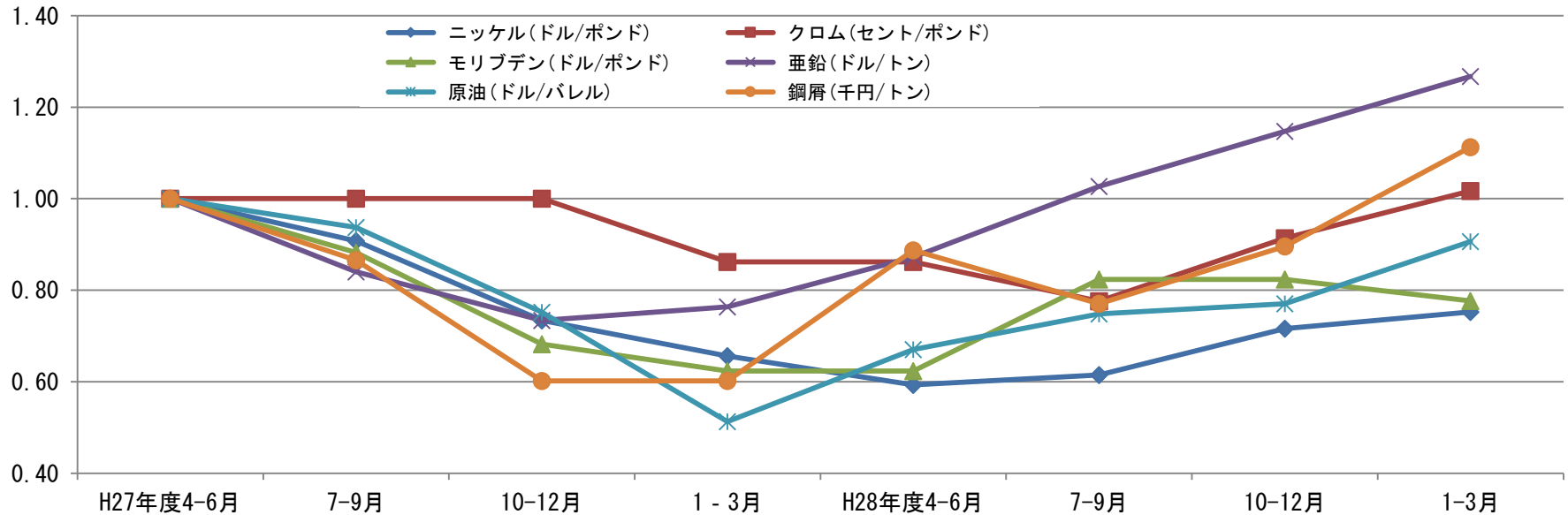
(ご参考)
主要データ



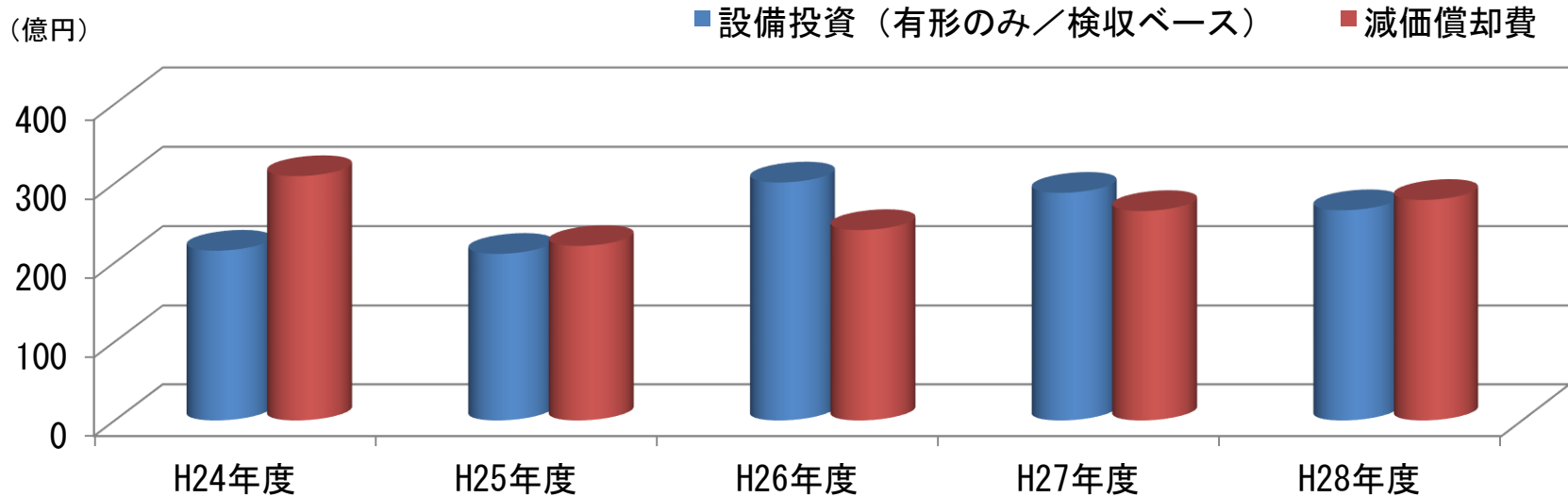
購買市況(適用ベース)

	H27年度							H28年度						
	上期			下期			平均	上期			下期			平均
	4-6月	7-9月	平均	10-12月	1-3月	平均		4-6月	7-9月	平均	10-12月	1-3月	平均	
ニッケル(ドル/ポンド)	6.51	5.91	6.21	4.78	4.27	4.53	5.37	3.86	4.00	3.93	4.66	4.90	4.78	4.36
クロム(セント/ポンド)	116.0	116.0	116.0	116.0	100.0	108.0	112.0	100.0	90.0	95.0	106.0	118.0	112.0	103.5
モリブデン(ドル/ポンド)	8.5	7.5	8.0	5.8	5.3	5.6	6.8	5.3	7.0	6.2	7.0	6.6	6.8	6.5
亜鉛(ドル/トン)	2,195	1,844	2,020	1,611	1,676	1,644	1,832	1,915	2,254	2,085	2,518	2,781	2,650	2,367
原油(ドル/バレル)	58.9	55.2	57.1	44.3	30.2	37.3	47.2	39.5	44.1	41.8	45.4	53.4	49.4	45.6
鋼屑(千円/トン)	23.1	20.0	21.6	13.9	13.9	13.9	17.7	20.5	17.8	19.2	20.7	25.7	23.2	21.2

購買市況の推移 (H27年度4-6月を1.00)



設備投資・減価償却費

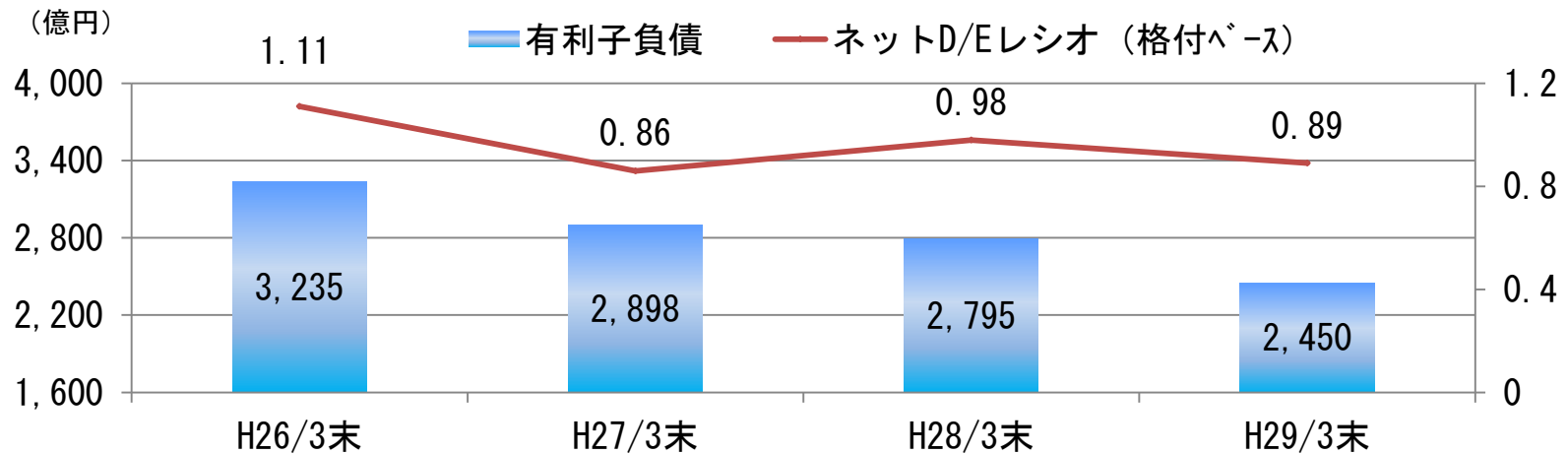


(億円)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
設備投資	215	211	301	288	266
減価償却費	309	221	241	265	279

※設備投資額は有形のみ／検収ベース

有利子負債・ネットD/Eレシオ（格付けベース）



	H26/3末	H27/3末	H28/3末	H29/3末
手許預金 (億円)	408	263	314	167
有利子負債 (億円)	3,235	2,898	2,795	2,450
ネットD/Eレシオ	1.36	1.00	1.17	1.07
〃 (格付けベース) ※	1.11	0.86	0.98	0.89

※ 日本格付研究所の格付評価上、資本金性が認められるハイブリッド証券/ハイブリッドローンについて、元本の50%を資本とみなした場合のネットD/Eレシオ
 (H26/3末は500億円の50%、H27/3末、H28/3末およびH29/3末は400億円の50%を、それぞれ資本に算入)